

会報

日本勤労者山岳連盟(富山県連盟)

新日本スポーツ連盟



# 三島野スポーツクラブ

No. 301

2025年10月1日

代表 岩井 富雄

射水市宝町 1364-35

TEL・FAX 57-8180



聖 山(長野市/麻績村) 小本 清画

## 10月・11月企画案内

- ◆ 10/3(金) 弥陀ヶ原～天狗平
- ◆ 10/17(金) 焼 岳
- ◆ 11/1(土) 高 坪 山
- ◆ 11/8(土)～9(日) 富士を愛でる山旅  
小富士・明神山パノラマ台
- ◆ 11/16(日) 三方岩岳・野谷荘司山
- ◆ 11/29(土) 寺家公園

## 山行報告

- 8/24(日)～25(月) 鳳凰三山  
地藏岳・観音岳・薬師岳
- 9/5(金)・6(土)・7(日)  
尾瀬ヶ原 燧ヶ岳 至仏山
- 9/20(土) 霧 訪 山

新会員紹介 表紙絵の説明

## 10月・11月企画案内

10/3(金)弥陀ヶ原から天狗平企画は参加募集を締め切りました。

# 10/17(金)

## 紅葉を愛でる山旅企画 その2

# 焼岳

やけど  
2455.4m  
高山市

釜トンネルを抜けると不意に目の前に、あたかもこれから展開する山岳大伽藍の衛兵のように、突っ立っているのが焼岳である。(略)ある秋の晴れた日。焼岳はまるで五色の着物を着たようにみごとだった。

深田久弥 著 「日本百名山」焼岳の項より

※これから展開する山岳大伽藍とは  
北アルプスの核心部、3000mの岩峰が連なる槍ヶ岳・穂高連峰を指す。(編集担当)

【出発】5時00分

【行程】中の湯登山口 → 広場 →  
南峰/北峰の鞍部 → 焼岳北峰  
(往復)

標高差 867m 登り 4時間 下り 3時間

体力度・技術度とも★★☆☆☆

【装備】ヘルメット努力義務

【参加申込】10月7日まで

的場邦夫 SMS 090-4320-5325 へ



# 11/1(土)

## 紅葉を愛でる山旅企画 その3

# 高坪山

たかつぼやま  
1014m  
南砺市(旧平村)

五箇山の中心に位置し、世界遺産の相倉合掌集落の背後にそびえる。山容はすっきりした三角形。古くから「おむすび山」と親しまれ、旧平村のシンボリック的存在。

【行程】

宮谷尾根 登山口 → (道宗道) → 獅子越峠 →  
猪越山 896m → 高坪山 <往路を下る>

標高差 630m 登り 2時間30分 下り 2時間

体力度・技術度とも★☆☆☆☆ L: 荒井英治

【参加申込】10月23日まで 荒井英治へ

SMS 080-8695-6639



11/8(土)~9(日)

富士を愛でる山旅

## 小富士 & 富士山展望の山 明神山・三国山

1905m

1291m

1320m

### 【行程】

**1日目** 中央高速道 東富士五湖道路須走 IC 須走五合目  
登山口 小富士 須走五合目 幻の滝 河口湖畔宿舎  
歩行時間 約二時間 標高差は僅か 100m位

**2日目** 川口湖畔宿舎 パノラマ台 明神山  
三国山 (往復)

歩行時間 登り 1 時間 40 分 下り 1 時間 1 時間 20 分  
累積標高差 登り・下りとも約 400m

【参加申込】 レンタカーと宿舎予約のため、募集人数を 8 名と  
します。先着順で受け付けます。  
的場邦夫へ SMS 090-4320-5325

【費用】 約 30,000 円



小富士から富士山を仰ぐ



明神山からの富士山

11/16(日)

紅葉を愛でる山旅企画 その4

## 三方岩岳・野谷荘司山

さんぽういわだけ 1736m  
のだにそうじやま 1797m  
岐阜県白川村

白山ホワイトロードの三方岩 P 1450mから登ります。  
三方岩岳まで標高差 290m 1 時間。馬狩荘司山 1704  
m・野谷荘司山 1797mまでさらに 1 時間 15 分。  
往復します。  
参加申込は 11 月 6 日締切です。L は未定。  
次号会報で詳報を記載します。



11/29(土) 寺家公園

富山市 (旧大沢野町)

広大な敷地を持つ寺家公園の中にある「紅葉狩はこちら」の看板から小道を進むと、紅葉した木々の隙間から差し込む光に照らされた神秘的な景色に出会えます。公園内にある池に映る美しい紅葉も見られます。

企画詳細は未定。  
次号会報No.302 で案内します。



# 山行報告

8/24(日)

~25 日(月)

# 南ア 鳳凰三山

地蔵岳 (2764m) 観音岳 (2840m) 薬師岳 (2780m)

〔メンバー〕 L塚 良昭、SL 的場邦夫、加藤日出子、今村和子、森田絹代、 石黒洋子

## 【行程記録】

### 8/24(日)

薬勝寺池 P 発	4:10
青木鉱泉着	8:30
ドンドコ沢登山口発	9:00
南精進滝	11:15
白糸の滝	13:30
五色の滝	14:20
鳳凰小屋	

### 8/25(月)

鳳凰小屋発	4:00
地蔵岳	5:00~5:40
観音岳	7:10~7:40
薬師岳	8:00
薬師小屋	8:10~8:20
薬師岳	8:25~8:35
青木鉱泉着	13:15
薬勝寺池 P 着	19:00



左・ホウオウシャジンの群生

中・地蔵岳 オベリスクの岩峰

上・五色の滝

## ひとくち感想

**的 場**：存在感のある地蔵岳（オベリスク）。高速道路を走っていても富士山とオベリスクは間違わずにそれとわかる山。この山にはクラブに入会前に2度登っている。特に2度目は2009年に今回と同じく周回コースに挑戦し、悪天候の為オベリスクから先に進めず青木鉱泉に引き返した苦い経験がある。又、2015年5月に三島野から残雪の鳳凰三山縦走を夜叉神峠から6名（堀井、岩井、林、小坪、岩越、的場）でしている。今回は青木鉱泉からの中道ルートでの周回なので2009年以来のルートで小屋も新しくなったとの事なので楽しみだった。（実は宿泊は初めて2回とも日帰り）小屋の情報取得不足で携帯の充電が出来ず、又お湯の販売も無かったのが残念。夜中は雷が鳴り雨も降り明日の天気心配だったが、晴れて縦走時には虹も見られ、富士山、北岳、間ノ岳、甲斐駒等見ながらの縦走の鳳凰三山。シャジン、タカネビランジの花々を見ながら楽しい山旅。おまけに2015年に皆で宿泊した薬師小屋に立ち寄った。（小屋は新しくなっていた）ここからの下りは長く、シラビソの森の中を延々と歩き約5時間。ようやくゴールした。お疲れ様でした！！気持ちの良い充足感でイッパイ！！

**今 村**：二日目、早朝4時に鳳凰小屋を出発。真っ暗な中、ヘッドライトの灯りをたよりに地蔵ヶ岳(2764m)を目指す。いつのまにか辺りが白けてくる。立ち止まって後ろを振りかえりと、朝焼けが雲海を赤く染めている。素敵な景色との出会いは、頑張って登ったご褒美。砂地の斜面に変わり歩きにくい。でっかい岩が積み上がった塔、オベリスクが目前に現れて、びっくり！畏れ多いので、少しだけ登る。何ものにも動じない威厳ある姿！しばし鳳凰気分に入る。その後地蔵の頭に向かう。途中の広場には、たくさんのお地藏様が、並んでいる。どのお地藏様も、優しくいい顔。そこで朝食。



次の山、観音岳(2840m)、薬師岳(2780m)を目指す。登りきった後には、長い長い下り道。倒木と木の根っこだらけの道をすべらないように気をつけて下る。5時間も下ったかな。やっと青木鉱泉駐車場に着く。みなさんのおかげで、楽しい登山ができました。ありがとうございました。

**森 田**：私にとってはコロナ禍以降、初めての山小屋泊であり、参加にあたっての緊張感は半端なかったです。上りは辛いながらも滝を見てはキャーキャー騒ぎながら楽しく歩いたのですが、淡々と樹林帯を歩く下りの5時間は地獄のように長く感じました。それでも途中、今村さんと小鳥との軽快な会話に癒されたりもしました。富士山、ハウオウシャジン、オコジョ、虹も見られました。今日はバキバキの筋肉痛ですが、その疲労感を感じながら素晴らしかった景色を思い返しています。

**石 黒**：地蔵ヶ岳のオベリスク、観音岳からの富士山、賽の河原に並ぶお地藏様、滝、オコジョ、ホシガラス・・・鳳凰三山はすばらしかったです。標高差2000m以上の登り下りは初めての経験で、初日に鳳凰小屋に辿り着くまで滝汗と頭痛、吐き気で体力を消耗してしまいました。副リーダーに「ゆっくりでいいから、今日中に着けばよいから。」と励まされ、ゆっくりと休み休み歩きました。二日目に皆さんがオベリスクに登ったり、薬師小屋に行ったりする間は、体を休めました。



リーダーが後ろを気かけながらゆっくりと歩いてくださったり、足がつったときに仲間が芍薬甘草湯や塩をくださったりと助けていただきました。おかげで二日目は三山を歩き、2000mの下りをみなさんと一緒に朝4時から昼の1時15分までの9時間を歩き、「歩けたね。」と言ってもらえたことが嬉しかったです。車で5時間以上もかかる遠方のすばらしい山の山行計画を立て、準備して、運転してくださったリーダー、副リーダー、ご一緒した皆さん、ありがとうございます。

**塚**：当初の予報では24日は夕方から雨、25日は11時から雨で天候を心配していました。初日の夜中に雷と豪雨がありましたが、無事に歩くことが出来ました。青木鉱泉から鳳凰小屋までは沢沿い道でタイプの違った三つの滝を楽しむことが出来ました。特に最後の五色ノ滝は滝壺まで降りることができ、迫力のある滝を下から眺めることが出来ました。二日目は小屋から1時間ほどで地蔵ヶ岳に到着。何処からでも目立つ特徴のあるオベリスクの真下まで登ることが出来ました。観音岳から薬師岳までの縦走路は花崗岩の綺麗な白い道で気持ち良く歩けました。昨年登った北岳・間ノ岳、また甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳、八ヶ岳や富士山まで眺めることができ素晴らしい山行になりました。

か 藤：青木鉱泉からスタートして、樹林帯の中を歩くが、湿気が高く滝のように流れる汗で体力奪われる。南精進ヶ滝、白糸の滝と巡る。滝では涼があって爽快だった。最後の五色ノ滝はダイナミックで迫力満点！鳳凰小屋へと着いて夕飯のカレーは美味だった。食後に雷雨で明日の天気を心配したが、朝晴れてホッ!!二日目 4 時に出発し朝日を拝め、富士山が雲海に浮かび、虹とのコラボの素晴らしい景色に感激。ハウオウシャジン、タカネビランジ、バイケイソウ等の花達に癒されて、オベリスクに辿り着き、根元迄登って 360 度の眺望を楽しんだ。三山縦走の見どころは変化に富んだ、各山頂から遠くの名峰迄見渡せる抜群の展望です。後は青木鉱泉迄 5 時間もかけての下山です。しかし、途中から足に痛み感じ、痛みで時々痙攣もあり、一步一步の足取りが辛かったが、根性で如何にか無時下山できて良かった。帰る車の乗り降りにも足痛感あり、この時は未だ筋肉痛とは思いましなかったし、あるはずが無いと!!??翌日更に痛みが強くて、筋肉痛の痛みと気づき驚きであった!!!!!!反省点は今回の山行きは猛暑で、殆んどトレーニングもせず参加した事である。鳳凰三山＝鳳凰散々な山旅となった。山を侮っては駄目ですネ。合掌

9



観音岳山頂にて



薬師岳山頂にて

## 表紙の山 聖山 1447m

聖山(ひじりやま)は、長野県長野市と麻績村(おみむら)にまたがる筑摩山地最北の山です。<sup>かんむりきやま</sup>冠着山(姨捨山)と<sup>おぼすてやま</sup>四阿屋山とともに筑北三山のひとつであり、信州百名山にも選ばれています。<sup>あずまややま</sup>

広く長い山頂稜線は、両側を急斜面で囲まれており展望の良い山として非常に人気の高い山です。また、美ヶ原などと同様に電波塔が多く建てられており、長野県の北半分の山々は全て見えると言っても過言ではないほどの立地の良さが魅力です。特に、間近に見える北アルプスは雄大で、圧倒されるような大迫力の光景が広がっています

### 新会員紹介

よろしく  
お願いします

溝口 都さん (みぞくち みやこ)

1979 年生まれ 高岡市在住



## 山行報告

9/5(金)～7(日)

# 尾瀬ヶ原(標高 1600m～1700m)

メンバー；〈L〉的場邦夫、〈写真〉今村和子  
棚田清志、石黒洋子

## 燧ヶ岳・至仏山

(2356m)

(2228m)

### 【行程記録】

#### <1日目>

薬勝寺P発 5:00

大清水P着 10:10

大清水～一ノ瀬まで乗合バス 10:30～10:40

一ノ瀬出発 11:00

長蔵小屋着 13:20

#### <2日目>

長蔵小屋発 5:30 (長英新道)

俎嵩 (まないたぐら) 9:00

柴安嵩 (しばやすぐら) 10:00

見晴新道を通って下山、見晴で昼食

竜宮十字路、牛首

山の鼻小屋着 16:10

#### <3日目>

山の鼻小屋発 5:30

至仏山 8:45

小至仏山 9:50

鳩待峠着 12:00

鳩待峠～大清水まで乗合タクシー 12:30～13:10

大清水で昼食、途中入浴し薬勝寺に帰着



### ひとくち感想

的 場： 沢山の参加人数を想定して色々準備したが最終的には参加者が4名になりレンタカーを止めてマイカーにした。又、宿泊人数も変更して対応し当日を迎えた。当日は予報どおり雨。でも今日は一寸歩き宿までと割り切って山用傘をさして歩き、三平峠を過ぎたあたりから雨が小降りになり沼が表れ、燧ヶ岳が見えた時は感動でした。早目に宿に着いた。宿はとっても親切でした。風呂に入り汗を流してから夕飯までは時間が有り雨も止んでいたの、沼の周辺を散策し写真を撮る。夕飯が終わってからビジターセンター(福島県)で映写会が有り尾瀬沼について色々教えていただきました。

2日目は晴れて最高で、ミノブチヶ岳、俎嵩、柴安嵩(燧ヶ岳)と登り頂上では富士山も見られて眺望は良かった。見晴新道を下り見晴小屋周辺は沢山の人で賑わっていた。皆で無事に下山出来たことを喜んだ(自分は3回転んだ)酷い下りでした。後は山の鼻小屋までは尾瀬ヶ原の真ん中の

木道を至仏山の麓まで燧ヶ岳を背にしてルンルンでした。山ノ鼻の小屋も風呂が有り汗を流し夕飯後は、今度は群馬県側のビジターセンターで映写会に参加した。

3日目は至仏山です。森林限界を過ぎてから蛇紋岩の岩場を登り、登り始めは尾瀬ヶ原に霧がかかり気味だったが頂上ではすっかり晴れて最高でした。兎に角無事に山行を終えて良かったです。

石 黒： 燧ヶ岳、至仏山から眺める尾瀬沼や尾瀬ヶ原の景色を楽しみにして参加しました。Tさんが、歩きながら何度も立ち止まって景色を振り返り「本当にいい所だ！」とつぶやいておられたことや、みんな「もう二度と来れんから」と何度も口々に言って尾瀬の景色を堪能したことから、本当に素晴らしい山行に参加できて幸せでした。柴安峠下山の見晴新道は、岩や根っこ、倒木だらけですごい酷道！至仏山は蛇紋岩のつるつるの岩場だらけで、ずっと集中しっぱなしで大変でしたが無事に下山でき、ほっとしました。長蔵小屋は尾瀬の雰囲気合った山小屋で、中の造りや周りの植物も安らぎを感じさせてくれました。初代の長蔵さん、二代目の長英さん、三代目の長靖さんが尾瀬の自然を大切に守り続けたことが伝わってきました。三平峠、長蔵小屋前の谷川から引いた水場、小屋前のヤナギラン、元長蔵小屋、そして現在の建物は90年過ぎても昔の景観を大切にしていることが、実際に見たことでしみじみと伝わってきます。自然を大切にしたい三平峠へ続く大清水Pに車が少なく、鳩待峠がおしゃれな建物でリゾート化して、戸倉の駐車場が広くて車があふれていたことにさみしさを感じます。便利さに惹かれそうですが、守っていききたいこともあります。遠方への山行を計画しコースや宿泊先も吟味し、さらに長時間の運転、リーダーありがとうございます。そしてTさん、Iさん、登山経験の少ない私の歩調に合わせてくださり、ありがとうございます。

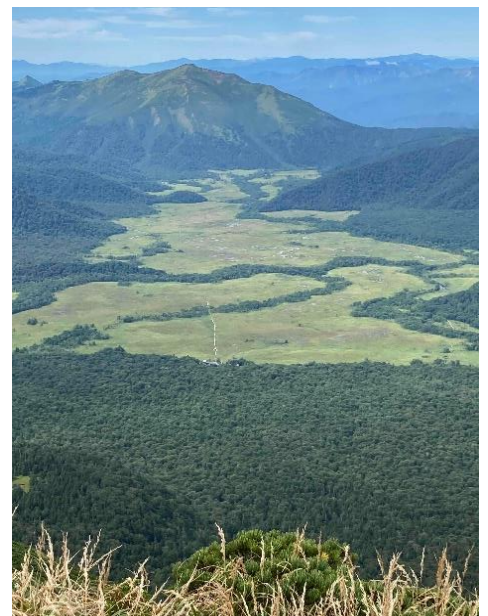
今 村： 1日目は、雨の中カップで歩く。今日泊まる長蔵小屋は尾瀬沼前の木造の素敵な宿。玄関の土間には、小さなダンボールでちょこっと区切られた所に、土色のアズマヒキガエルが住んでいる。可愛かった。尾瀬沼を散策後、ゆったりとした談話室で番茶を飲んで過ごす。

2日目、朝5時半に燧ヶ岳を目指す。ミノグチダケ、俎岳(マナイタグラ)、柴安岳(シバヤスグラ)の峰を目指す。足元は前日の雨でぐちゃぐちゃ。3時間半で燧ヶ岳山頂。広大な尾瀬ヶ原は、もちろん、遠くに富士山も見える。素晴らしい眺望。ゆったりした後、根っこや倒木だらけの山道を降りる。ちょっと気をぬくと足元が滑る。とても疲れた。4時間かけてやっと見晴らしの店に着く。もうクタクタ。ざる蕎麦と尾瀬の水が冷たくて美味しかった。その後は山の鼻まで尾瀬ヶ原の木道を、ゆっくりのんびり歩く。今日の宿も水洗トイレにお風呂付き。汗を流し、マスの塩焼きの夕飯に生ビール🍺で、的場さん棚田さんの誕生日にかんぱーい。

3日目、朝5時半に、出発。ツキノワグマがよく見られるという至仏山へ。登り始めから急登な岩場。昨日の悪路に比べると、とても登りやすい岩場。途中石川県から来た登山者に会う。近くで『熊見ましたよ』と。3時間で至仏山山頂。次から次と登山者が続く人気の山。小至仏山山頂を通り、下山。12時鳩待峠に着いた途端、都会風の雰囲気にびっくり。ゆったりと山生活を満喫した楽しい登山でした。



長蔵小屋前にて



燧ヶ岳から見下ろした尾瀬ヶ原

棚田： 唱歌・「夏の思い出」に歌われた尾瀬に憧れ、迷わず参加したけれど、期待した以上の感動でした。初日は小雨のスタートだったが、途中で止んで道は木道や階段などで良く整備されていて歩き易かった。小屋に着いて尾瀬沼の周辺を散策したが、大江湿原が広がっていてこれが尾瀬の風景かと思わせられた。

二日目は晴天。前日の雨でぬかるんだ道を登り、燧ヶ岳山頂に着く。眼下に尾瀬沼や尾瀬ヶ原が俯瞰できる。この景色がなんとも素晴らしい。吹き渡る風も爽やか。しかし、尾瀬ヶ原に向かう下山道は滑りやすく、怪我こそ無かったが2, 3回転びやっとの思いで「見晴」に着く。ここからは尾瀬ヶ原を突っ切って「山ノ鼻」まで木道を歩く。これがまた長かったが、周囲には大小の池塘がたくさんあり、心をなごませてくれた。

三日目は朝霧漂う幻想的な尾瀬ヶ原を後に至仏山に向かう。登山道は乾いているが蛇紋岩の道は滑りやすく慎重に登る。森林限界を超えて、振り返ると尾瀬ヶ原が俯瞰でき、その後ろに燧ヶ岳がそびえる。この景色もまた素晴らしい。至仏山頂上は多くの登山者で溢れ、360度の眺望が広がる。後ろ髪を引かれる思いで下山する。

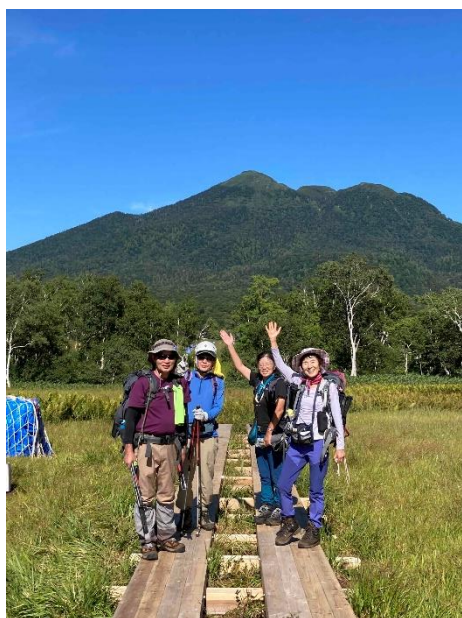
尾瀬沼、燧ヶ岳、尾瀬ヶ原、至仏山の取り合わせが何とも言えないいい風景を作っている。至福の三日間でした。リーダーをはじめ、同行の仲間の皆さんありがとうございました。



尾瀬沼と燧ヶ岳



池に映るに逆さ至仏山



至仏山を背に尾瀬ヶ原の木道を歩く



ヒツジグサ

〔メンバー〕 的場邦夫、岩井富雄、塚 良昭、林 憲彦、石黒洋子

## 【行程記録】

薬勝寺池 P	5 : 50
山の神自然園 P	9 : 10
下西条コース登山口	9 : 45
鉄塔下	10 : 15
ブナの分岐	11 : 10
霧訪山山頂	11 : 30 ~ 12 : 00
下西条登山口 着	14 : 00

## ひとくち感想



的 場：参加者は7名で計画していましたが、2名が「体調不良」で不参加となり、5名での山行となりました。薬勝寺池 P から3時間半かけて登山口へ。雨にこそあいませんでした。山名どおり“霧が訪ねて”残念な山行となりました。次回は頂上に設置してある方位版の360度の山々の大展望を見たいと思い、リベンジする山として強く心に留めました。冬も、春も、秋も挑みたい！

塚 良：人気の里山山行、良く整備されて広く歩き易い登山道でした。山頂ではガスに覆われて眺望は望めませんでしたが、霧雨程度の雨で楽しく歩くことが出来ました。

林 憲：霧訪山はまさに霧に包まれた山でした。行動中、霧は一向に晴れず、展望も今に一つ望めませんでした。加齢による体力低下の実感を初めて悟り、山の素晴らしさと仲間の暖かい励ましを特に感じた山行でした。

石 黒：霧訪山の塩尻市まで3時間半の長距離です。林さんの大きな車にゆったりと座り、行きは林さん、帰りは的場さんの運転でドライブを楽しむことが出来ました。ありがとうございます。サラダロードには、ブドウ、リンゴ、キャベツなどの広い畑が続いていて、帰りにフルーツの買い物を楽しみました。霧訪山は人気の里山で、山道はふかふかとした土、達筆の標識、男坂と女坂、たまらずの池などがあり、ツリフネソウや萩が咲き涼風は秋を知らせてくれていました。大雨にあわず霧雨程度だったのはリーダーや皆さんの普段の行いがよかったからに違いありません。桜の春、紅葉の秋、雪の冬も素晴らしい様なので、機会があれば山頂からの景色を眺めてみたいです。リーダー、ご一緒した皆さん、ありがとうございます。



岩 井：空模様が心配でしたが、時折小雨が降りましたが邪魔になる雨でなく頂上まで雨具を使わずに行ってこれで満足です。登山靴を持って行くのを忘れ皆さんに心配かけました。はいている靴に結束バンドで靴の中で足を動かないように固定して登頂することができました。

本格的に秋がやってきました。夏と違い秋は日の暮れるのが早いです。ヘッドライトを必ず持参しましょう。ライトの明るさを確認しましょう。家の中で大丈夫と思っても登山道では暗く感じますので注意してください。

## 〔三島野スポーツクラブ世話人会〕

任務分担	氏 名	住 所	TEL	携帯
代 表	岩井 富雄	射水市宝町 1364-35	57-8180	090-5177-9255
副代表	的場 邦夫	氷見市十二町 1037-36	74-6434	090-4320-5325
副代表	堀井 泰則	高岡市石瀬 748-6	25-2792	090-1314-6394
会計担当	塚 良昭	射水市寺塚原 226	84-1162	080-8033-7427

世話人会は、岩井富雄、的場邦夫、堀井泰則、塚 良昭、荒井英治、川渕順正、棚田清志、新田俊明、山本則夫、石黒洋子、加藤日出子、島倉津也子、守田清子の 13 名で構成します。

〔監事〕今村和子、浦 幸江                      〔相談役〕山田 格、林 憲彦

10 月の世話人会開催 **10 月 14 日 (火) と 10 月 28 (火) 午後 2 時から**。会場は「はなみずき」です。  
尚、どなたでも自由に参加することができます。お気軽に足を運んでください。

**会報編集担当** 会報に記載する原稿は下記のアドレスに送ってください。

堀井泰則 [horii.yasunori@rouge.plala.or.jp](mailto:horii.yasunori@rouge.plala.or.jp)

甲かほる [kab@p2.tcnet.ne.jp](mailto:kab@p2.tcnet.ne.jp)

松田理恵子 [krbara@p2.tcnet.ne.jp](mailto:krbara@p2.tcnet.ne.jp)

会報『**三島野スポーツクラブ**』をインターネットで見るとするには、まず、「スポーツ連盟とやま」を検索し、次に富山県連盟、次の画面の「三島野スポーツクラブ」をクリックし、次の画面の「会報」をクリックすると見ることができます。

ホームページへのアクセスは [http://sportstoyama.namaste.jp/99\\_blank.html](http://sportstoyama.namaste.jp/99_blank.html) を入力して検索してください。また、スマホの場合は右の Q R コードを利用してください。

全ページをカラー写真で見ることができます。



## 編 集 後 記



・先号の会報の編集後記でも触れましたが、遭難事故の報道が後を絶たない。JWAF journal (労山本部発行) によると労山に届けられた会員の遭難事故は 6 月・34 件、7 月・50 件と事故一覧で報告されています。8 月はずっと増えることが予想されます。労山でこんな状況ですから一般の未組織登山者や単独登山の事故は然るべきだろうと推察できます。自分の体力と技術レベルを知り、登る山・ルートを選ぶことが事故を未然に防ぐ第一歩だと思います。では、その自分の技量はどうかすれば知ることができるだろう？ そのためにはきちんとした指導者のいる山岳会やハイキングクラブに入って、登山の知識を豊かにし、登山技術の基本を学び、経験を重ねることだと思います。まわりに山好きで単独行動している人があれば声を掛けましょう。「三島野スポーツクラブにはいませんか」と。

・クラブ会報が 300 号を超えました。私が会報を担当したのは No.113 (2010 年 2 月号) からでした。会報を作るうえで留意していることは、「企画した山の魅力をどうして伝え、参加意欲を持ってもらえるか？」「登った山の感動を登っていない人とどうしたら共有できるだろうか？」と。そんなことを 15 年以上も毎月、毎月やってきたかとチョット感慨深げに自分をほめたくなる。そんなに質の高い冊子ではありませんが、素人が手作りで作っている感あふれるものですが、内容がマンネリ化していると思っています。斬新な企画などあれば提案してください。

(会報編集責任者 堀井泰則)